

2010年度九州支部発表会の報告

日本気象学会九州支部は、2010年度の支部発表会を2011年3月5日(土)、宝山ホール(鹿児島市)で実施しました。昨年の発表を大きく上回る24の発表があり、出席者も約60名と非常に盛況な発表会となりました。特に今回は、2010年10月の奄美大島の大雨に関連して、日本気象学会気象災害委員会との共催による特別講演・セッションを開催したこともあり、活発な意見交換・質疑応答が行われました。

特別講演の加藤輝之氏(気象庁数値予報課)には、「集中豪雨の発生環境場とその条件」について、詳細かつ分かりやすく説明していただきました。津口裕茂氏(気象研究所予報研究部)には、「奄美豪雨」の数値実験」として、解析的な調査結果及び数値実験の結果を示していただきました。地頭菌 隆氏(鹿児島大学農学部)は、「奄美豪雨による土砂災害」として災害のメカニズム、奄美大島の災害状況についてご紹介いただきました。

特別セッションでは「奄美豪雨」に関連して5つの講演が行われ、各種データを用いた解析が紹介されました。

また、九州支部発表会では、毎年、研究を本務としない支部会員あるいは若手支部会員に対して、①気象学の向上に資する研究を行っている、②気象学の教育・啓蒙活動を積極的に行っている、③気象学を応用した活動で社会に貢献している方を対象に、「支部奨励賞」を授与しています。2010年度は、以下の2名の方が受賞されました。

・長門信也さん

(鹿児島地方気象台観測予報課)

・下村早也香さん

(鹿児島地方気象台名瀬測候所技術課)

九州支部発表会の様子については、支部のホーム



第1図 支部発表会の様子。



第2図 支部奨励賞受賞式の様子。上：長門信也さん、下：下村早也香さん。

ページ(「九州支部だより No.110」)上でも掲載していますので、是非ご覧ください。

(九州支部ホームページ：<http://msj-kyushu.jp/>)